

授業科目	リハビリテーション概論				
担当者	吉機俊雄・高木卓司・ST 教員 他				(オムニバス)
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ①リハビリテーションの概要についての講義と言語聴覚障害の方との対話会を行う。
- ②A：非経口摂取の状態にある仮の患者を設定し、援助方針の立案に関するグループディスカッションを講師、学生の相互で実施する。経口・非経口それぞれによる栄養摂取方法の特性や臨床的意義について解説及び質疑応答を行う。B：講師が経験した症例の援助プロセスを通じて、摂食・嚥下障害分野（高齢者）の援助における考え方、基盤を形成する。

■ 到達目標

- ①リハビリテーションの考え方について知る。言語聴覚障害者とのコミュニケーションについて理解を深め、コミュニケーションに関する自己の課題を知る。言語聴覚障害の方との対話を通じて、リハビリテーションへの取り組みや生活の実際を知る。
- ②高齢者が対象の場合における ST の役割の理解。非経口摂取から経口摂取に移行するための援助における重要な視点の理解と現場応用。非経口摂取の状態にある患者とその家族のニーズや心情、予後の理解。機会に応じた意見表出發表能力の獲得

■ 授業計画

- 第1回 リハビリテーションとは
リハビリテーションの考え方とその概要（ST 教員）
- 第2回 対話会の実施にあたって
対話会の意義と取り組むべき課題について（ST 教員）
- 第3回 第1回 言語聴覚障害の方との対話会（吉機、ST 教員）
- 第4回 第1回 言語聴覚障害の方との対話会（吉機、ST 教員）
- 第5回 第2回 言語聴覚障害の方との対話会（吉機、ST 教員）
- 第6回 第2回 言語聴覚障害の方との対話会（吉機、ST 教員）
- 第7回 非経口摂取の状態にある仮の患者についてパワーポイントを使用して解説する。個々の学生が考えた内容とその根拠について陳述する。（高木）
- 第8回 講師が経験した内容についてパワーポイントを使用して解説する。学生自身の考え方と照らし合わせや価値観の変遷をフィードバックし、援助業務の内容を「自分のこと」としてとらえられるようにする。（高木）

■ 評価方法

レポート100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・グループで対話会の準備を行う。また、終了後は対話会のビデオを見ながらレポートを作成する。
- ・参加される方の時代背景（戦前・前後、それ以降）について調べておくこと。
- ・仮定のケースや症例に対して、学生同士で感想を述べたり、意見交換を行うこと。

■ 教科書

■ 参考図書

■ 留意事項

これまでに学習したことを踏まえ、「自分の意見を述べる」「解決のために必要な事柄がなになのかを現実的にイメージする」といったことを意識してください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

教科書にどう書いてあるかを思い出すよりも、「自分はどう思っているのか」と大切にしてください。